

S

PAT-NO: JP410099114A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10099114 A
TITLE: UMBRELLA WITH LOCK
PUBN-DATE: April 21, 1998

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
TSUCHIDA, SHOGO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
TSUCHIDA SHOGO N/A

APPL-NO: JP08294321
APPL-DATE: September 30, 1996

INT-CL (IPC): A45B009/02, A45B001/04

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To place an umbrella in a condition that the umbrella is hung on a rod member of which the both edges are fixed, such as a bicycle, a horizontal bar, a handrail of stairs, or the like, and the umbrella is locked by extending a handle, even when there is no umbrella stand, by adding a movable about quarter circular tube to a point end of a handle of the umbrella which is ordinarily about semi-circular, so that the handle part can be closed, and by setting the ordinary type or the closed type in such manner that both types can be fixed by a key.

SOLUTION: A handle of an ordinary umbrella is an about semi-circle 1, but an about quarter circle 2 is added to the handle, to close the handle part. On this occasion, the quarter circular part 2 is made to be movable, so that the ordinary type and the closed type can be setted, and fixed by a key 3. Further the handle part comprises a point 5 bendable at a specific angle, so that the handle can be fixed at the start point, the end point and the middle point.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

DERWENT-ACC-NO: 1998-289897

DERWENT-WEEK: 199826

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Locking system for umbrella - includes curved semicircular movable shank fitted over semicircular end of handle and locked by key

PATENT-ASSIGNEE: TSUCHIDA S [TSUCI]

PRIORITY-DATA: 1996JP-0294321 (September 30, 1996)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 10099114 A	April 21, 1998	N/A	004	A45B 009/02

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 10099114A	N/A	1996JP-0294321	September 30, 1996

INT-CL (IPC): A45B001/04, A45B009/02

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 10099114A

BASIC-ABSTRACT:

The system includes a curved semicircular movable shank (2) which is fitted over a semicircular end (1) of a handle of the umbrella. The movable shank is moved to any desired shutting position over the handle end and locked in place with a key (3). Thus, the theft of the umbrella is prevented.

ADVANTAGE - Locks umbrella in any place like bicycle, handrail of staircases. Prevents dripping of water over clean floor surfaces in buildings from wet umbrella.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/2

TITLE-TERMS: LOCK SYSTEM UMBRELLA CURVE SEMICIRCULAR MOVE SHANK FIT SEMICIRCULAR END HANDLE LOCK KEY

DERWENT-CLASS: P24

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1998-227860

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-99114

(43)公開日 平成10年(1998)4月21日

(51)Int.Cl.⁶

A 45 B 9/02
1/04

識別記号

F I

A 45 B 9/02
1/04

C
Z

審査請求 有 請求項の数1 書面 (全4頁)

(21)出願番号

特願平8-294321

(22)出願日

平成8年(1996)9月30日

(71)出願人 596115894

土田 庄吾

兵庫県姫路市御国野町国分寺314

(72)発明者 土田 庄吾

兵庫県姫路市御国野町国分寺314

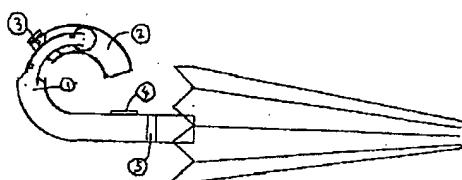
(54)【発明の名称】 ロッキング・アンブレラ

(57)【要約】 (修正有)

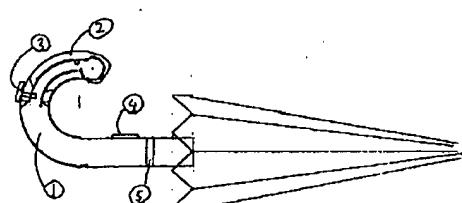
【課題】 雨がやんだあとは、濡れていて滴がたれる等々、特に室内で持ち歩くのは建物の清潔面からも、そしてなにより傘の持ち主にとって厳しく、これは、傘のもう一つ欠点の一つである。傘の自然な形の中にカギの機能を併せ持たせることによって、この欠点を克服する、ロッキング・アンブレラである。

【解決手段】 通常傘の柄は約半円1を描いているが、そのうえに約四半円2を足して、柄の部分を閉じてしまう。その際、四半円の部分2を可動とし、通常の型と閉じた型を作り、それぞれカギ3で固定できるようにする。又、柄の部分は、ある角度折れ曲がる点5を持っており、その初めと終わりで、さらにはその途中で固定できるようにする。

(a)



(b)



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】通常、傘の柄は約半円を描いているが、その先に可動の約四半円の筒を足して、柄の部分を閉じ得るようにして、通常の型と閉じた型とを作り、それぞれカギで固定できるようにし、さらにその柄の部分を可動としたロッキング・アンブレラである。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、傘の盗難防止と置き場に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より傘の盗難防止については、傘縦がもっぱら一般的であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これには、近くに傘縦がなければならず、無い場合は、身じかに持つていなければならないが、これは邪魔物となり、雨に濡れたあとなどは最悪であった。本発明は、この欠点を解決するためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】通常、傘の柄は約半円(1)を描いているが、その約半円の部分(1)を根元の約四半円と先の約四半円で太さを変え、先の方を細くし、先端部には球をつくってまた少し太くしたものをする。その先に中空の約四半円の筒(2)を足して、約半円の部分(1)と離れないようにし、同時に柄の部分を閉じ得るようにする。すなわち、約四半円の筒の部分(2)を折り畳みの傘の柱と同様に可動とし、通常の型と閉じた型とを作り、それぞれカギ(3)で固定できるようとする。又、柄の部分は、ある角度折れ曲がる点(5)を持っており、その初めと終わりで、さらにはその途中で固定できるようとする。本発明は、以上の構成よりなるロッキング・アンブレラである。

【0005】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を説明する。外出先で傘をしまう際、傘縦が無い場合でも両端が固定された棒状のもの、例えば、自転車(e)、鉄棒(f)、階段の手すり(g)などがあればそこに傘を掛け、柄の部分をのばしてカギを掛け、傘を置いておける。ここで重要な点は、本発明品が傘にカギを付けただけの言葉どうりの実用に適さないものではなく、傘の自然な形の中にカギの機能を併せ持たせた、雨を遮って、かつそのうえにカギを持った傘であるという点である。

10 【0006】

【発明の効果】本発明を使用することによって、どこでも両端が固定された棒状のものさえあれば、そこに傘を置いておける。現代の科学をもってしても、降雨の正確な時間はわからず、外出時、人々は傘を持たねばならない。雨の降っている間は良いが、降っていない間、特に雨の降りやんだあと、傘縦が無い時などは、傘は、濡れでいて滴がたれる等々の欠点を持っていた。本発明は、この欠点を大部分取り除きうるものである。

【図面の簡単な説明】

20 【図1】本発明の平面図

- (a) 傘の柄の約半円と約四半円の部分
- (b) 通常の場合
- (c) 閉じた場合
- (d) 傘の柄を90度曲げた場合

【図2】本発明の使用状態を示す図

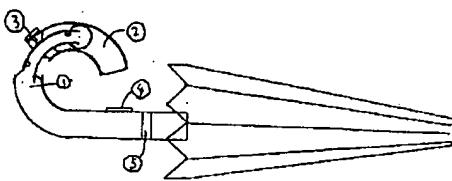
- (e) 自転車
- (f) 鉄棒
- (g) 階段の手すり

【符号の説明】

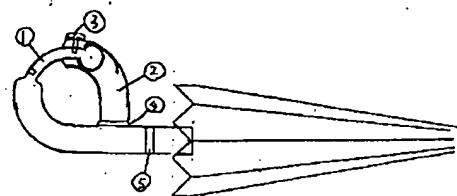
- 30 1 傘の柄の約半円の部分
- 2 傘の柄の約四半円の部分
- 3 カギ
- 4 損傷防止用のゴム板
- 5 傘の柄の折れ曲がり部分

【図1】

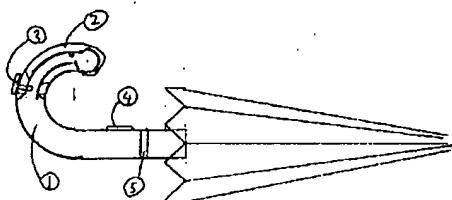
(a)



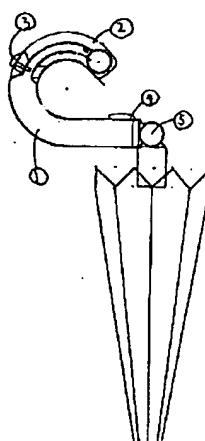
(c)



(b)



(d)

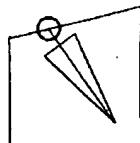


【図2】

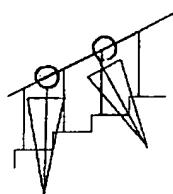
(e)



(f)



(g)



【手続補正書】

【提出日】平成9年3月26日

【手続補正1】

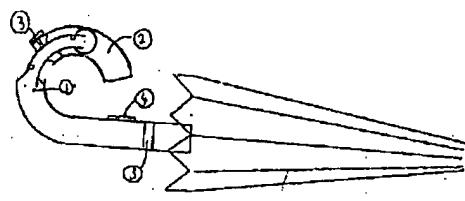
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

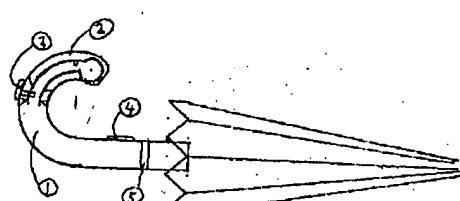
【補正方法】変更

【補正内容】

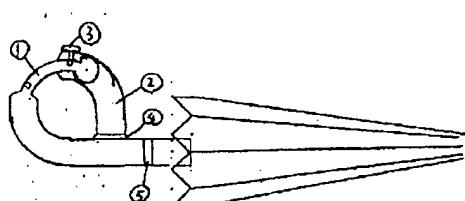
【図1】



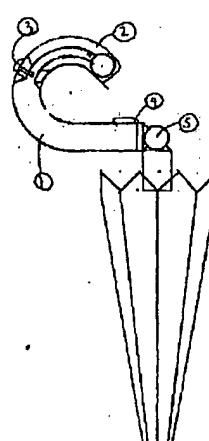
【図2】



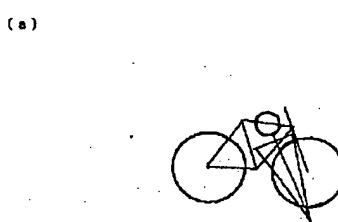
【図3】



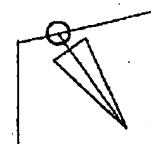
【図4】



【図5】

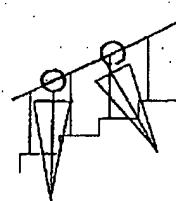


(a)



(b)

(c)



【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図1】 傘の柄の約半円と約四半円の部分の平面図

【図2】 通常の場合の平面図

【図3】 閉じた場合の平面図

【図4】 傘の柄を90度曲げた場合の平面図

【図5】 本発明の使用状態を示す図

(a) 自転車

(b) 鉄棒

(c) 階段の手すり

【符号の説明】

1 傘の柄の約半円の部分

2 傘の柄の約四半円の部分

3 カギ

4 損傷防止用のゴム板

5 傘の柄の折れ曲がり部分